

《資 料》

実験的メセナの実施報告

菅 家 正 瑞

(長崎大学経済学部「企業メセナ研究会」代表)

1. はじめに

本研究会は平成18年9月8日(金)から10日(日)にかけて、実験的に「メセナ」(mécénat)⁽¹⁾を実施した。「企業メセナ」の研究にあたって、その実体・内容を模擬体験することは今後の研究に有意義であろうと考えたからである。結果については、いろいろな評価があると思われるが、少なくともメセナ活動の一端にその内部から触れることが出来たのは貴重な体験であったし、少しは企業メセナの理解に役立ったと考えている。資金は我が研究会への寄付金⁽²⁾を充てたので、寄付者へのアカウントビリティーを果たすためにも、我々が行った「メセナ」活動について簡単に報告したい⁽³⁾。

注

(1)メセナとは芸術文化支援を意味するフランス語である。古代ローマ帝国の初代皇帝「アウグストゥス」の右腕と言われた「マエケナス」(Maecenas)が芸術や文化を手厚く擁護したことから、その名をとって「芸術文化を擁護、支援すること」をメセナと言うようになった。

(社)企業メセナ協議会(編)『メセナマネジメント』ダイヤモンド社、2003年、245頁参照。

(2)本研究のために著者は18年度の「科学研究費」に応募したが、残念ながら不採用となった。しかし、研究組織は既に作り上げていたし、本研究は著者の研究生活を締めくくる最後の研究と位置づけていたので、研究を続けるべく多くの方々に寄付を仰いだ。ほぼ200万円の研究資金が確保できたので、予定通り研究を始めることが出来た。この場を借りて寄付して頂いた方々に深く感謝申し上げる。

- (3)「企業メセナ」と「企業管理」との関連については、拙著『環境管理の成立』千倉書房、2006年、特に第1章 環境管理の成立、第6章 環境志向の市民化管理、を参照されたい。

2. 経 緯

(1) 実施決定までのいきさつ

はじめに今回「メセナ」の実施に至った経緯について簡単に述べる。きっかけはドイツで修行中の著者の知り合いであるピアニスト（大室晃子氏、以下「大室」という）⁽¹⁾のメールであった（5月29日）。その内容は、某チェリストが大室の伴奏で大分でコンサートをするので長崎でもできないか、というものであった。結局、この提案は実現できなかったが、これをきっかけに、著者はこれを「企業メセナ」として長崎で大室によるコンサートができないかと考えた。理由は「はじめに」で述べたとおりである。この企画は著者にとって意図せざるものであったし（つまり綿密な「計画」の不在）、メセナ活動は初めての経験であったので、その経緯は試行錯誤の連続であった。幸い筆者は35年前に2つのコンサートのマネジメントを手がけており、学生時代には音楽サークルの演奏会の責任者でもあったので、その時の経験が役に立った。

注

(1)大室の略歴は以下の通り。

東京生まれ。幼少の頃よりピアノをはじめ、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学、同大学院を経て2002年渡独、フライブルク音楽大学を最優秀で卒業。現在シュトゥットガルト音楽大学大学院に在学中の傍ら、同大学にて教鞭をとる。またクラリネット科の伴奏助手も務めている。ドイツを拠点としながらヨーロッパで活躍する将来有望な若手ピアニスト。

ウエスカ市国際ピアノコンクール（スペイン）、モノポリー賞国際ピアノコンクール（イタリア）、イジドール・バジック賞国際ピアノコンクール（セルビア）などで、上位入賞、ディプロマをはじめ、国内外のコンクールで数々の賞を受賞。2006年よりバーデ

ンブルテンベルク州立銀行より奨学金を授与されている。ドイツの *Badische Zeitung* 紙上において、「卓越した技術を持ち、コンサートを成功に導くソリスト」と絶賛され、ZDF 局*でも演奏が放映される。ミュンヘン・ヘラクレスザール、ベルリン・コンチェルトハウスなどドイツ国内主要ホールでの演奏はもとより、ヨーロッパを拠点にソリストとして、グンドルフィンゲン室内オーケストラなどのオーケストラとの共演、新人作曲家の新曲の紹介も務め、また、室内楽奏者としても著名な音楽家からの信頼を得ており、イタリア、フランス、チェコ、ハンガリー、オーストリアなどの各国で演奏している。

岡崎悦子、植田克己、浜口奈々、御木本澄子、Vitali Berzon、Wolfgang Blosser の各氏に師事。

*ZDF局は3Sat 局の誤り。誤った経歴をチラシに載せたこととお詫び致します。

はじめは、当然ながらこの企画を地元企業による「企業メセナ」として実施できないか、と考えいくつかの長崎の地元企業あるいは事業所に持ちかけたが、結局引き受け手は見つからなかった。その理由は様々であるが、交渉の際に感じた大きな理由としては、①長崎経済が依然として停滞気味であること、②企業や事業所にとっては今年度の予算外の事業であること、③本企画が各企業の支援理念に必ずしも合致しなかったこと、④「企業メセナ」に関してまだ十分な理解や必要性が広まっていないこと⁽²⁾、などが考えられる。

(2)この点については後で簡単に触れるが、筆者の講義（「経営管理論」昼夜開講、受講生は昼夜各80名程度）において「企業メセナ」について尋ねたところ、「企業メセナ」についてその名称を知っている者は皆無であった。

以上のことから、この企画を「企業メセナ」として実施することは断念し、研究の基礎知識と体験を得るための「メセナ」活動と位置づけ、本研究会が主催者として実施することとした。いわば「アカデミック・メセナ」の実施ともいえる。（図 2-1 参照）

図 2-1 : 本研究会が作成したチラシ



表

裏

(2) 実施内容の決定

① テーマの決定

メセナ活動にはそれなりの理由あるいは動機や目的があるし、なければならぬ。目的がなければ何のための「メセナ」であるかその意義が問われるし、目的があってこそ合目的的方法が探求されうる。大室は長崎という街に惹かれ、以前より長崎でのコンサートの実現を希望していた⁽³⁾。そこで、演奏者の意向を尊重し、テーマを「大好きな長崎へ音楽のプレゼント」と設定した。もちろん、その趣旨からコンサートは無料とする。また、大室は長崎におけるコンサートは初めてという新人であり、長崎を愛するピアニストの紹介をも兼ね、長崎を活動拠点の一つにしたいと願っている意思実現の第一歩とすることとした。

(3)大室は自分自身で述べているように「遠藤周作」の大ファンであり、特に『沈黙』の舞台となった長崎(外海地区)に強く惹かれていた。なお、外海地区には「遠藤周作文学館」が2000年に設立されている。

② コンサートの設定

1) 外海地区黒崎東小学校の「アウトリーチ・コンサート」⁽⁴⁾

次に、このテーマに沿ったコンサートをどのように設定するか、が問題となる。まず、演奏者の意向を汲んで『沈黙』の舞台となった「外海地区」が候補となった。始めは教会コンサートを企画しこの地区の2つの教会に打診したが、引き受けてもらえなかったことやピアノの持ち込みがネックとなって、これは断念した。紆余曲折の末、結局、長崎市教育委員会のご厚意により外海地区にある「黒崎東小学校」で「アウトリーチ・コンサート」を実施することとなった。

本物の生の音楽に触れる機会が少ない子供達に、このような機会を提供することはとても有意義なことである。「音楽の力」⁽⁵⁾は我々の想像以上に大きいことを認識しなければならない。このコンサートの実現に関しては長崎市役所の「さるく博」⁽⁶⁾担当者であり長崎大学大学院経済学研究科第1期生である片岡研之氏に大変ご努力頂いた。ここに感謝の念を表したい。

(4)「アウトリーチ」(outreach)とは、一般の人々に芸術に対する潜在的なニーズや関心を喚起することで、芸術文化に関わる人々の「関係者の枠」を出て、日頃あまり芸術に触れる機会がない人や、関心がない人々に対して、なんらかの働きかけを行うことである。
(社)企業メセナ協議会編『上掲書』, 239頁参照。

(5)たとえば、菅家・佐藤『『企業メセナ』と『アブレウ博士』』『経営と経済』第86巻第2号, 長崎大学経済学会, 2006年, 103頁以下参照。

(6)「長崎さるく博'06」は、日本ではじめてのまち歩き博覧会として、平成18年4月1日から同年10月29日までの212日間にわたって長崎市で開催された。

この博覧会の特徴は、特定の会場に定置型のパビリオンを設けるという従来の博覧会とは異なり、市域全体を会場とし市内42地区をパビリオンと見立てて、430有余年の長きにわたって蓄積されてきたまちの記憶を紹介するという形態を採っている。また、計画から実施まで市民が主体となり、まちに残る既存資産を活用することで、将来にわたって持続可能なシステムとしたことにも大きな特徴がある。

特に、「長崎通さるく」と呼ばれるボランティアガイドとのまち歩きは、観光客と市民とのふれあいのなかで長崎というまちの知られざる魅力を体験することができ、今後の

新しい観光資源としての発展が期待されているところである。

なお、「さるく」という言葉は「その辺をぶらりぶらりと歩く」ことを意味する長崎弁である。

2) 長崎大学医学部・歯学部付属病院の「ロビー・コンサート」

本研究会は長崎大学の教員を中心として組織されており、この一連のコンサートも長崎大学の後援を頂いていることから、長崎大学に関連するコンサートを実施するのが礼儀というものであろう。そこで、大学の付属病院で「ロビー・コンサート」を企画した。幸い、病院には「患者サービス課」が設置されているので、このコンサートは学長および病院長の承認の下に全面的に患者サービス課に担当して頂いた。入院患者の中には比較的元気で時間的に余裕のある人たちや、コンサートを聴くことが可能な患者もいる。そのような患者さんに、生の音楽を聴いてもらうことは「音楽療法」という言葉があるように、病気やケガの回復に役立つことができるといわれている。「音楽の力」は思った以上に大きいのである。

3) 長崎県美術館の「ロビー・コンサート」

平成17年(2005年)に開館した県美術館は、新設された長崎歴史文化博物館と並んで、文化・芸術の東京一極集中化ともいえる中で、長崎らしさを具現化した本格的な美術館⁽⁷⁾と博物館である。本県は、これらの施設によってやっと本来の文化・芸術の拠点を持ち得たと言えるかも知れない。それはさておき、本美術館では催し物の一環として以前から一定レベルの演奏者にエントランス・ロビーを開放して「ロビー・コンサート」を実施している。そこで、大室の長崎デビューには最適であると判断し、美術館館長に申し入れたところ問題なく承認された。コンサートの運営はほとんど美術館側で行って頂いた。これは、翌日の本格的なピアノ・リサイタルの序奏となるものである。大室の担当者であった館員の建石久美子氏に深く感謝したい。(図2-2参照)

(7)本美術館は(株)日本設計 隈研吾氏の設計になるもので平成17年4月に開館し、館全体をガラス張りとしたユニークな建物である。今回、「須磨コレクション」の展示や調査研究活動等について、スペイン政府他により組織する団体「カーサ アシア」よりスペイン文化の普及に大きな功績をしたと認められ、平成18年「カーサ アシア賞」を受賞した。

図 2-2 : 美術館が用意したプログラム


大室晃子ピアノコンサート 長崎県美術館

Akiko Omuro Piano Concert

平成 18 年 9 月 9 日(土) 15:30~18:00

~Program~

1. エチュード Op. 25-1「牧歌」(F. ショパン) / F. Chopin: Etude op.25-1
2. エチュード Op. 10-5「嵐雲」(F. ショパン) / F. Chopin: Etude op.10-5
3. ノクターン Op. 9-2 (F. ショパン) / F. Chopin: Nocturne op.9-2
4. 主人の望みよ慰むよ (J.S. バッハ) / J.S. Bach: Ave. Joy of Man's Desiring
5. 夜夢第3番 (F. リスト) / F. Liszt: Liebestraume no.3
6. 長崎の鐘 (サトウハチロー作詞・吉岡裕爾作曲) / The bell of Nagasaki



大室晃子(ピアノ)

東京都生まれ。東京音楽大学音楽学部付属音楽高等学校、東京藝術大学、同大学院を経て2002年長崎、アライバル音楽大学を履修卒業。京都シロウトン音楽大学大学院で修士号の取得、同大学にて助教を務め、ドイツを転々としたのちヨーロッパで活躍する音楽家大室晃子である。

ウエスカタカシマアカカシマ・シベリウス、モノボーン音楽祭ピアノコンクール・イタリア、イタリノ・パトリック賞演奏ピアノコンクール(イタリア)などで、上杉八重、ティロワマをはじめ、国内外のコンクール数々の賞を受賞。ドイツのZukunftsmusik Zeilung誌にも載っている。

「琴瑟した長崎を待ち、コンサート会場に輝くアコースティックギター、ZOFIでも演奏が披露される。コンサート会場は、ヨーロッパを旅したアコースティックギター、ZOFIでも演奏が披露される。コンサート会場は、ヨーロッパを旅したアコースティックギター、ZOFIでも演奏が披露される。

主催：長崎大学経済学部社会事業研究委員会
共催：長崎県美術館
後援：長崎県、長崎市教育委員会、長崎大学、長崎新聞社、NHK 長崎放送、十八銀行、長崎県工業振興局、長崎経済同友会

Nagasaki Prefectural Art Museum

表

~長崎の鐘 (サトウハチロー作詞・吉岡裕爾作曲)~

- 1 こよなく晴れた 希望を
悲しと思う せつなさよ
うねりの波の 人の世に
はかなく生きる 野の花よ
なくさめ はげまし 長崎の
あゝ 長崎の鐘が鳴る
- 2 召されては 天国へ
別れて一人 旅立ちぬ
かたみに残る ロザリオの
涙に白き 我が涙
なくさめ はげまし 長崎の
あゝ 長崎の鐘が鳴る
- 3 つぶやく風の ミサの音
たたえる風の 神の歌
預く胸の 十字架に
ほゝえむ潮の 雲の色
なくさめ はげまし 長崎の
あゝ 長崎の鐘が鳴る
- 4 こころの罪を うちあげて
更け行く夜を 月すみぬ
貧しき家の 柱にも
鎮高く白き マリア様
なくさめ はげまし 長崎の
あゝ 長崎の鐘が鳴る

裏

4) 旧上海香港銀行長崎支店跡記念館⁽⁸⁾のリサイタル

これは、以上の一連のコンサートを締めくくる、①長崎への音楽のプレゼンツ、と②長崎へ新人演奏家の紹介と育成、という本企画の2つの目的を一本化し、収斂させた本企画のメイン・イベントと位置づけられるものである。したがって、プログラムも練りに練ってもらい、大室も本リサイタルに向かって一連のコンサートの流れに乗ってきたはずである。いろいろなメディアやチラシも、このリサイタルに焦点を合わせて活用させて頂いた⁽⁹⁾。したがって、一連の本企画が成功するか否かは、本リサイタルに懸かっていると言っても過言ではない。(図 2-3 参照)

- (8)旧上海香港銀行長崎支店跡記念館とは、その名称から推測できるように長崎が明治以来中国貿易の拠点であったことから設置された同銀行支店跡の建物である。建設以来長い年月が経過し古くなったことから取り壊しの計画が立てられたが、石造りの由緒ある建物であることから反対運動が市民から湧き上がり、修理して残すことになった。現在では、手頃なコンサートや集会などに広く利用されている。
- (9)利用させて頂いたメディアは、長崎新聞、NBC長崎放送、長崎ケーブルメディアなどである。下は長崎新聞に掲載された記事(9月9日付け)。



図 2-3 : 本リサイトののために作成したプログラム。

大室晃子ピアノリサイト

Akiko Omuro Piano Recital

2006.9.10(Sun)18:30~20:30
旧上海銀行長崎支店記念館

主催：長崎大学経済学部「金メセナ研究会」
後援：長崎大学、長崎県、長崎市教育委員会、長崎新聞社、NBC長崎放送、十八銀行、長崎商工会議所、長崎経済同友会。

オーストリアの麓 Dachstein (Dachstein)

表

~Program~

1. スカルラッチ: 2つのソナタ K. 380, 381
2. モーツァルト: ソナタ K. 457 ハ短調
3. リスト=ワーグナー イゾルデの死 オペラリスタとイゾルデより

-----休憩-----

4. リスト: エスプレの構成
5. ショパン: タランテ Op. 43
エチュード Op. 25-1「牧童」
Op. 10-3「流れの曲」、10-5「黒鍵」、10-12「革命」
舟歌 Op. 60

大室晃子(ピアノ)経歴
東京生まれ。幼少の頃よりピアノをはじめ、東京経済大学音楽部付属音楽高等学校、東京藝術大学、同大学を経て2002年渡独、フランクフルク音楽大学を最優秀で卒業。現在シュトゥットガルト音楽大学大学院に在学中の傍ら、同大学にて教鞭をとる。またクラリネット科の伴奏も手掛けている。ドイツを拠点としながらヨーロッパで活躍する多才な若手ピアニスト。

フランス南西部ピエモンテ(スベイン)、モナポリ-真鍮曲ピエモンテ(イタリア)、イジドール・ジジック賞(ピエモンテ)など、上良入賞、ディプロマをはじめ、国内外のコンクールで数々の賞を受賞。2004年よりバーデン・ヴュルテンベルク州立銀行より奨学金を授けられている。ドイツのBiedschke-Zeltinger社において、「卓越した技術者たち、コンサートを成功に導くリスト」と絶賛され、2007年でも演奏が収録される。ミュンヘン・ヘラクラス・ゲル、ベルリン・コンチェルトハウスなどドイツ国内主要ホールでの演奏はもとより、ヨーロッパを拠点にリストとして、グンデルフリンゲン室内オーケストラなどのオーケストラとの共演、私人作曲家の録音の紹介も積極的。また、室内楽専攻としても著名な音楽家からの依頼を得ており、イタリア、フランス、チェコ、ハンガリー、オーストリアなどの名所で演奏している。

岡崎悦子、後田真己、浜口繁々、御木本美子、Vitali Berzon、Wolfgang Blosserの各氏に師事。

裏

3. コンサートの実施

それでは、本企画は実際はどのように行われ、いかなる結果となったのであろうか。

1) 黒崎東小学校

同校の樽美寛校長は、長崎市教育研究会音楽部部長および長崎県教育研究会音楽部小学校部会長を兼ねる、体育を専門とする先生である。今回のコンサートの実施に当たっては熱心に取り組んで頂いた。結果は以下の通り。

主 催：黒崎東小学校。

日 時：9月8日（金），13：40～14：40。

会 場：同校体育館。

聴 衆：同小学校生55名，黒崎中学校生87名，地域住民35名，教職員22名，計179名。

プログラム：子犬のワルツ（ショパン），主よ人の望みの喜びよ（バッハ），エリーゼのために（ベートーベン），エチュード；牧童・黒鍵・別れの曲・革命（ショパン），愛の夢第3番（リスト）。

同校では、我々が作ったチラシを拡大し校舎正門に掲示したほか、独自にプログラムを用意していた（図3-1参照）。コンサートの最後にアニメ映画「となりのトトロ」で歌われている「さんぽ」を合唱し、演奏者へのお礼として小学校の生徒から「ふるさと」の合唱があり、同校「校歌」⁽¹⁾の合唱でコンサートは終了した。なお、この模様は「長崎ケーブルメディア」で同日3回放映された。

演奏者のコメント：大勢の小中学生を前に、「お話」を入れて演奏するのは初めての経験でしたが、ピアノをぐるっと囲んで座っていた子供たちの純粹で興味に満ち溢れた視線は本当に印象的でした。もっとゆっく

り話せばよかった、あの曲を演奏すればよかった、など反省もありませんが、演奏終了後の子供たちの笑顔を見て、喜んでもらえた様子なのでほっとし、とても嬉しく思いました。

主催者のコメント：本校は音楽教育に取り組んでおり、今回のコンサートはとても有意義なものであり、児童生徒はもちろん地域・保護者・教職員ともこの日を楽しみにしていた。当日は残暑の中、体育館での演奏で演奏者の大室さんは大変だったろうと思いますが、私たちは感動と喜びの中に時間を過ごすことが出来ました。本物の生の音楽に触れることが出来たことを感謝いたします。また、大室さんの優しい人柄に触れることができ、子ども達も大変、喜んでいました。機会がありましたら子ども達にまた、演奏を聴かせてあげてください。菅家先生、大室さんに素晴らしい時間を頂いたこと、本当にありがとうございました。（樽美校長）

図 3-1：当日用意されたプログラム（表紙のみ）

大室 昌子 先生
外灘地区アウトリーチコンサートプログラム

1 日 平成18年9月6日(日) 13:30~14:40

2 会 場 長崎県立長崎東中学校 体育館

3 プログラム

○ 大室先生入場 13:38~

1 開会の言葉(司会) 13:40~

2 生徒代表あいさつ(長崎中学校 上野ゆうた) 13:41~

3 長崎東小学校校長あいさつ(樽美 寛) 13:44~

4 演 奏 13:50~

○ 子供のワルツ(ショパン)
○ 立入の望みの喜びよ(ベッヘ)
○ エラー等のために(ベートーヴェン)
○ ニューード 牧童・雨(シューベルト)
○ 愛の夢 第3番(リスト)
○ 金婚合奏「ふるさと」

5 花東程呈(長崎県立長崎東中学校)

6 お礼の歌「長崎東小学校校歌」

7 長崎中学校校長あいさつ(長崎中学校)

8 閉会の言葉(司会) 14:40~

○ 大室先生退場

自己評価：滑り出しとしてはそれなりの成果が得られたと思われる。大室も最初の演奏会なので幾分緊張気味であったが、小学生も中学生も目をキラキラと輝かせて演奏に聴き入っていた。演奏会終了後、サインをせがまれたり記念写真を取り合ったりと、生徒達との交流はほほえましいものであった。

注

(1)本小学校の校歌は奇縁から「中田喜直」によって作曲され、そのこともあり同校は音楽活動に熱心である。「ふるさと」は生徒から来客者へのお礼としていつも歌われている歌であり、とても綺麗な合唱であった。

2) 大学病院ロビー・コンサート

長崎大学の研究会が実施するメセナであるので、可能であれば後援者の一つである長崎大学でも演奏を行うべきであろう。そこで、筆者も時々お世話になり現在もお世話になっている同大学付属病院でロビー・コンサートを行った。結果は以下の通り。

主 催：長崎大学医学部・歯学部付属病院，協賛：財団法人 輔仁会。

日 時：9月9日（土），11：00～11：30。

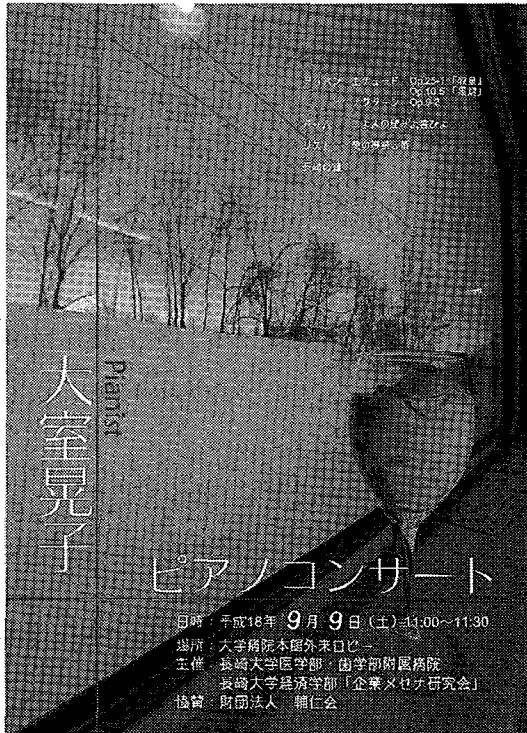
会 場：大学病院本館外来ロビー。

聴 衆：入院患者約90名，職員10名，計約100名。

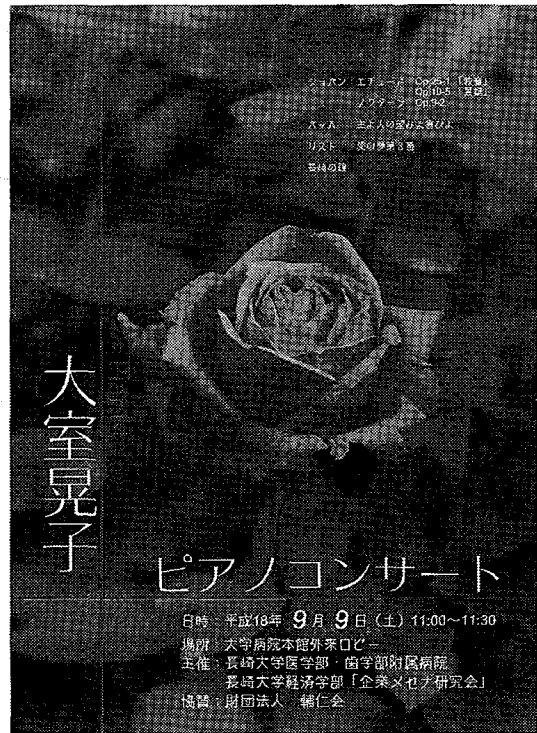
プログラム：エチュード；牧童・黒鍵（ショパン），ノクターン（ショパン），主よ人の望みよ喜びよ（バッハ），愛の夢第3番（リスト）。

最後に、医学部ゆかりの被爆教授であり多くの原爆被害に関する著書を残した「永井博士」のベストセラー『長崎の鐘』⁽²⁾をモチーフに作られた曲「長崎の鐘」を全員で合唱してコンサートは終了した。患者サービス課は、3種類のチラシ・ポスター（図3-2参照）を用意するほどにこのコンサートの実現に熱心に取り組んで頂いた。ここで溝上課長を始めこのコンサートの実

図 3-2 : 本コンサートのために用意された 3 つのチラシ。



チラシ 1 (表)



チラシ 2 (表)



チラシ 3 (表)



裏(裏は 3 種類とも同じ)

施に関わった職員に深く感謝する。なお、この模様は同日夕刻のNBCのニュース番組で放映された。

(2)「長崎の鐘」はサトウハチロー作詞，古関裕而作曲になる名曲であり，著者の故郷である福島市にはこの故郷が生んだ偉大な作曲家を記念した古関祐而記念館が設立されている。

演奏者のコメント：音楽に癒しの力があることは，私自身の経験からも実感するところでしたが，演奏後にたくさんの患者さんから感謝の言葉をいただき，私も演奏家冥利につきる体験でした。「長崎の鐘」は，永井博士の本を読んだ後には涙なしには歌えないような，長崎の方々にとっては心の歌であることと思うのですが，その歌を最後に合唱できたことも本当に良かったと思います。

主催者のコメント：患者さんが静かに耳を傾けておられる姿を見て，さすがに生の演奏は人の心を引きつけるものだなあと感じました。楽しみの少ない患者さんにとって一服の清涼剤になったことは間違いありません。ありがとうございました。大室さんの今後益々のご活躍をお祈り致します。(溝上課長)

自己評価：入院生活は患者の症状によるが，時間をもてあましたり，病気が改善して音楽を聴ける人たちも結構多い。しかし，当然ながら入院生活はいわば自由が制限された拘束的な側面を持ち，精神的にも不安定になりがちである。筆者は何回か長期の入院生活を経験しているので，そのような心理状態はよく理解できる。このような状態の時に，本物で生の音楽に接することは，患者にとって大きな癒しになるに違いない。また，聴くだけでなく自分たちも共に歌を歌うことはストレスの解消に一役買うのではなかろうか。演奏会終了後の多くの患者の笑顔に接し得たことは，このコンサートの成功を表していると思われる。

3) 県美術館ロビー・コンサート

美術館におけるロビー・コンサートは、これからの美術館における新しい試みの一つになるであろう。特に、同じ芸術同士が一箇所で融合することは、音楽家にとっても来館者にとっても大きな刺激になるに違いない。美の追究に垣根はいらない。美術を愛する人々からの観点で、音楽を聴いて頂けるのは音楽家に新しい視点を模索させるのではないか。大室もこのコンサートで何らかの成果を得たのではなかろうか。本館における結果は以下の通り。

主 催：長崎大学経済学部「企業メセナ研究会」、共催：長崎県美術館。

日 時：9月9日（土）、15：30～16：00。

会 場：長崎県美術館エントランス・ロビー。

聴 衆：着席者約60名、立見者約40名、合計約100名。

プログラム：エチュード；牧童・黒鍵（ショパン）、ノクターン（ショパン）、主よ人の望みよ喜びよ（バッハ）、愛の夢第3番（リスト）。

演奏者のコメント：響きの良いエントランスホールと素晴らしいグランドピアノに恵まれ、本当に気持ちよく演奏することができました。遠くは神戸からもいらしてくださった方もあり、また今回初めての「一般公開」であったことから知人の顔も見え、コンサートの喜び、楽しさをかみしめました。美術館でのコンサートは美術と音楽という二大芸術の融合だと思います。日本には素晴らしい美術館がたくさんあるので、こういう機会が増えるといいな、と思います。

共催者コメント：菅家先生の実施する「企業メセナ」活動に賛同し、今回美術館でコンサートを開催していただきましたが、無料で開催するには惜しいほどの充実したコンサートでした。美術館のコンサートの方針として「質の高い音楽を提供する＝発信」「若き音楽家を育てる＝教育」として、2つの面から運営を行っていますが、今回はまさに「質

の高い音楽を提供する＝発信」を多くのお客様に伝えられたのではないのでしょうか。今回はロビーコンサートと言うことで、一般の来館者もいらっしゃることを考えて、プログラムは比較的耳になじみのある曲を選択頂き、その結果多くのお客様からとても好評を得ました。また翌日の本格的なプログラムのリサイタルにも行きたいというコメントも頂きました。

多くの我が国の音楽家が志を高く持って留学をしておりますが、帰国してからの音楽活動は困難であるのが実情です。その中でも意欲的に音楽活動を行っていかうという若き音楽家のためにも「演奏する場所」を確保し、またお客様が「音楽を聴ける場所」を身近に感じられる「空間」を作っていくことは意義のあることで、かつ、このような「メセナ」活動が本当に増えることを期待して止みません。

今回、人柄が現れる素敵な演奏をして頂いた大室さん、主催者の菅家先生、そしてご来館くださった多くのお客様に感謝しています。ありがとうございました。

アンケート調査の結果と分析：美術館では、簡単なアンケートを取っていたので、その結果を簡単に紹介したい。(回答数約100名中44件)

認知度：このような開放型のコンサートは、目的客と偶然の来館者と2分され、内容や演奏者によっては、偶然の来館者の方が多いときもあります。しかし、今回のコンサートは偶然の来館者は17%、目的客が83%と圧倒的に大室さんのピアノを目的としたお客様が多かったことが特徴的です。その中でも、身内や知り合いからを除いて、一般的な広報（HP 2%、チラシ9%、新聞36%）からコンサートを知った方が47%と半数近くを占め、大室さんを知らなかった人で本人への関心の高さを示したことが良くわかります。

属性・居住地：大室さんの知人が多く来られていたためだろうと思わ

れますが、県外のお客様が目立ちました。また、偶然来館された県外のお客様からも嬉しいサプライズとの声が多く、これらがいつものコンサート違う点でした。(担当者：建石館員)

自己評価：本コンサートは、美の中心である美術館でのコンサートであり、それなりの審美観を持った聴衆が予想され、また、翌日の本格的リサイタルの前奏曲と位置づけられるものである。したがって、大室も大分緊張したと思われるが、予行演習的なコンサートも2回行っているので、普段の実力が発揮できたものと思われる。知人が遠方より駆けつけてくれたのも、緊張をほぐしリラックスして演奏できた要因の一つになったのではなかろうか。聴衆も予備のイスを急遽用意するなど、多くの人々がこのために来館して頂いたようである。

4) 旧上海香港銀行長崎支店跡記念館リサイタル

本コンサートは一連の演奏会の最後を締めくくる、本格的なリサイタルである。本メセナの実験が成功するか否かはこれに懸かっていると言っても過言ではないであろう。リサイタル形式も通常的方式であり、大室の長崎での評価もこれで決まると言ってもいいかもしれない。

大室の衣装を見ただけで本人自身もそれを自覚していたのがわかったし、主催者としてもドキドキものであった。

日 時：9月10日(日)，18：30～20：30。

会 場：旧上海香港銀行長崎支店跡記念館一階。

プログラム：2つのソナタ(スカルラッチィ)，ソナタ・ハ単調 Kv.457 (モーツァルト)，イゾルデ 愛の死 楽劇「トリスタントとイゾルデ」(ワーグナー)より(リスト)，エステ荘の噴水(リスト)，タランテラ(ショパン)，エチュード；牧童・別れの曲・革命・舟歌。

聴 衆：100人程度(100台の椅子を用意していたがほぼ満杯になり、

立ち見者も10数名いた)。

演奏者のコメント：レトロな雰囲気はこの記念館で本格的なリサイタルを開かせていただけることがとても嬉しくて、やはり今回のメインイベント、という気持ちで臨みました。曲目は何度も練り直して、自分が得意な曲、今回の趣旨にあった曲、初めての人にも馴染みやすい曲というような観点から選びました。菅家先生ご一家のみなさまにお手伝い頂き、中村さんによるすばらしいピアノの調律のおかげさまもあり、本当に理想的な状況でのリサイタルで、お客様にもたくさん入っていただいて、素晴らしい夕べとなりました。新聞の記事を読んで、あるいはケーブル放送を見ていらしてくださった方、そして前日の美術館で聴いた方がたくさんいらして下さったようで、今回のシリーズのハイライトとなったのではないかと自負しています。

アンケート調査の結果：本リサイタルに際して、「メセナ」に関する簡単なアンケート調査を実施したので、その結果の概略と簡単な分析結果を照会したい。(約100名中34枚回収、複数回答あり、40代以降の回答者が30名、しかも女性が2/3で圧倒的に多かった)

- i) 「企業メセナ」という言葉の認知度：知っていたのは7名のみで26名(76%)は知っていなかった。
- ii) 企業の関与について：企業は積極的に「企業メセナ」を社会的貢献として実施すべきであるという回答は33名(97%)と圧倒的に多かった。
- iii) 芸術活動の維持・発展の主体について：「政府」が13名(38%)、企業が12名(35%)で拮抗しているが、民間団体の役割を強調するのも10名(29%)と多かった。
- iv) 長崎県における「企業メセナ」について：何らかの形で行っていると認識している者が33名(97%)であった。なお、全く行っていないとするのが2名あった。

v) 残りの2つの回答項目は、この「企業メセナ」の試みとこのリサیتالに関する感想を聞くものなので、今回はそれぞれ様々な意見があったが極めて好意的意見が多かったことのみを報告するに止める。

分析： i) 「企業メセナ」という言葉をほとんど知らない人が圧倒的に多いが、長崎においても企業が文化芸術に何らかの貢献をしている、という認識は広まっているようである。

ii) 企業がメセナ活動をすべきであるという意見も圧倒的に多いが、政府や民間団体が芸術文化向上の主体となるべきであるという意見も多く、ほぼ3分されている。これは、市民のバランス感覚が働いたとも考えることが出来る。

iii) 著者の感覚では、長崎県における企業メセナ活動は決して少ないとは言えず、むしろ良くやっている方ではないかと思われる。しかし、市民への認知度や浸透度は浅いようで、「企業メセナ」という言葉はともかく、企業は市民に強くアピールする効果的で特徴的なメセナ活動を真剣に検討すべきではないか、と感じた。

自己評価： 席が満杯となり聴衆の確保については一応合格と言っていいだろう。1) 2) 3) の一連のコンサートを聴いた人たちも来ていたようであるし、メディアによって知った人も多かったようである。演奏内容も気迫に満ち、圧倒されるような熱演であった。最後の大室の挨拶を聴いて主催者として感に堪えず、不覚にも涙してしまった。今までの苦勞が報われた瞬間であった。(主催者のコメント)

4. おわりに (総括)

このような「メセナ」活動は初めての体験だったので、はじめに述べた理由などもありその過程は迷路を歩き回るような試行錯誤の連続であった。し

かし、それ故にこそ、得られた成果も重みのあるものであった。今回の2つ目標は「極めて」とは言わないとしても、それなりに達成できたのではないかと思われる。大学評価の用法でいえば「おおむね達成できた」に相当するであろう。この活動は「メセナ」の実験的試みとして、これからも目的や趣向を変えて続けていきたいと考えている。なお、集客に関しては、マスメディアが圧倒的な影響力を持っていることを実感した。

演奏者の総括：今回は4回にわたり、様々な形での演奏会をさせていただき、本当に私自身にとっても素晴らしい経験となりました。中学生のときに遠藤周作氏の『沈黙』に魂を揺さぶられて以来、ずっと長崎は憧れの地であったと同時に、西洋音楽が入ってきた街でもあり、思い入れ深い長崎でこのような演奏会を開催していただけたことは、本当に幸せでした。4回の演奏会を通じ、たとえ同じプログラムでも、場所によって、雰囲気によって求められる演奏も変わってくる、ということを実感しました。しかしながら、どんな状況においても共通なのは、聴いて下さる方々との音楽を通じてのコミュニケーションなのだ、ということであり、また、演奏会を支えるのは演奏者と聴衆だけでなく、企画、構成をしてくださる方、資金を提供してくださる方のご尽力なくしては成り立たないものだ、ということも痛感しました。私自身の演奏家としてのあり方に大きな影響を与えられたこの機会を頂いたことに、感謝の気持ちで一杯です。

この報告書を終えるに当たり、立石長崎県副知事をはじめたくさんの方々にご尽力をいただき、大きな励みとなった。いちいち個人名を挙げることは差し控えさせて頂くが、この方々のご支援がなければ、このような「メセナ」活動は実行し得なかったであろう。ここに、関係者に深く感謝したい⁽¹⁾。

注

(1)本メセナの実施あたって本研究会が直接に出費した経費は、出演料、旅費、滞在費、調律費、チラシ印刷費など概算で30万円であった。